木場橋

橋梁形式：一径間プラットトラス鋼橋
架設年次：昭和４年２月
所 在 地：江東区木場三丁目
　　大島川東支川に架かる
橋　　長：27.0m
幅　　員：13.3m
橋名由来：昔から材木の集散が行われた木場であったことからこの名がついた。

昭和55年撮影

現在の様子

現在の様子

木場橋は、大正12年に発生した関東大震災の復興事業の一環として架けられた「震災復興橋梁」の一つである。

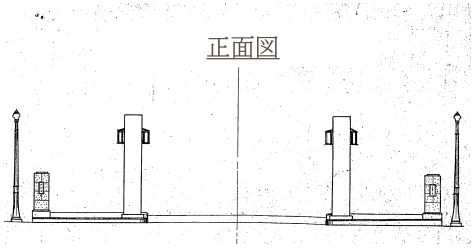
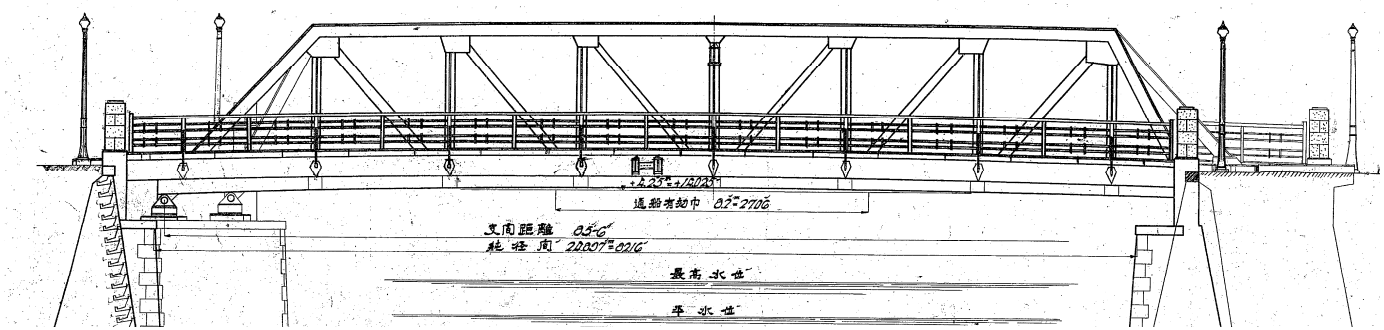
トラスとは、まっすぐな直線部材で構成された骨組構造で、主構造にトラスを用いた橋梁をトラス橋と呼びます。

プラットトラスとは、トラスの一部で、斜材を橋中央部から端部に向けて「逆ハ」の字に配置したもので、Tomas W.Prattが特許を取ったことから、この名称で呼ばれています。

説明板設置工事について

令和5年に関東大震災から100年を迎えるにあたり、過去の記憶や震災復興橋梁の歴史を広く区民に継承し、防災意識の啓発を図るために震災復興橋梁の説明看板を設置しました。

正面図



側面図